

洪水ハザードマップ

洪水ハザードマップとは

洪水ハザードマップとは、洪水時における被害を最小限に食い止めることを目的とし、予想される浸水の程度や避難情報などの各種情報をわかりやすくマップに表示して、緊急時の避難に役立てるものです。

「洪水ハザードマップ」の内容

「洪水ハザードマップ」には、古座川、小川が大雨によって増水し、溢水(水があふれる)、破堤(堤防が壊れる)した場合の洪水の広がる範囲や深さの程度、家屋倒壊等をもたらすようなはん濫の発生が想定される区域(家屋倒壊等はん濫想定区域)、避難場所、避難経路などを示しています。

また、防災情報として、5段階の警戒レベルや避難情報等の体系、過去の浸水実績の情報なども示しています。

洪水を予想するための雨の量

・古座川及び小川……………古座川流域の24時間総雨量812mm

浸水想定区域について

洪水浸水想定区域等は、指定時点の古座川の洪水予報区間^(※1)その他及び支川の小川(以下、古座川等という)の河道及び洪水調整施設の整備状況を勘案して、想定最大規模降雨^(※2)に伴う洪水により古座川等がはん濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。

※1:古座川水系古座川の洪水予報区間

左岸:古座川町大字相瀬洞189番地先から海まで

右岸:古座川町大字相瀬足谷305番地先から海まで

洪水予報は、台風の接近などで大雨が予想される場合に、和歌山地方気象台が河川流域の雨量予測を、和歌山県が河川の水位予測を行い、これらの情報を両者が共同で洪水予報として発表するものです。

※2:想定最大規模降雨

周辺地域における過去の降雨データを解析して求めた年超過確率1/1,000程度の降雨。

1,000年に1回発生する周期的な降雨ではなく、1年の間に発生する確率が1/1,000(0.1%)以下の降雨です。毎年の発生確率は小さいですが、規模の大きな降雨であることを示しています。

マップの見方と注意事項

■このマップに表示した浸水の範囲や深さは、溢水(水があふれる)、破堤(堤防が壊れる)のおそれがある地点を設定し、地点ごとにはん濫計算した後、それらの結果をすべて重ね合わせ、浸水予想による最大の範囲・深さなどを表示したものです。したがって、マップに表示した範囲に洪水が同時に発生するわけではありません。

■浸水範囲・深さは、地盤の高さを5m格子に分割して、これを1単位として計算しています。このため、地盤の高さが変化する場所では、予測した範囲や浸水深が実際と異なることがあります。

日頃から雨の降り方や河川の水位などに注意し、危険を感じたときは自主的に避難を心がけてください。

保存版

古座川町洪水ハザードマップ

古座川・支川(小川)の浸水想定および避難情報

このハザードマップに示す浸水想定区域は、想定最大規模降雨(『年超過確率1/1,000程度の降雨』24時間総雨量812mm)に基づいて解析されたものです。

早めの避難が
あなたの命を救います。

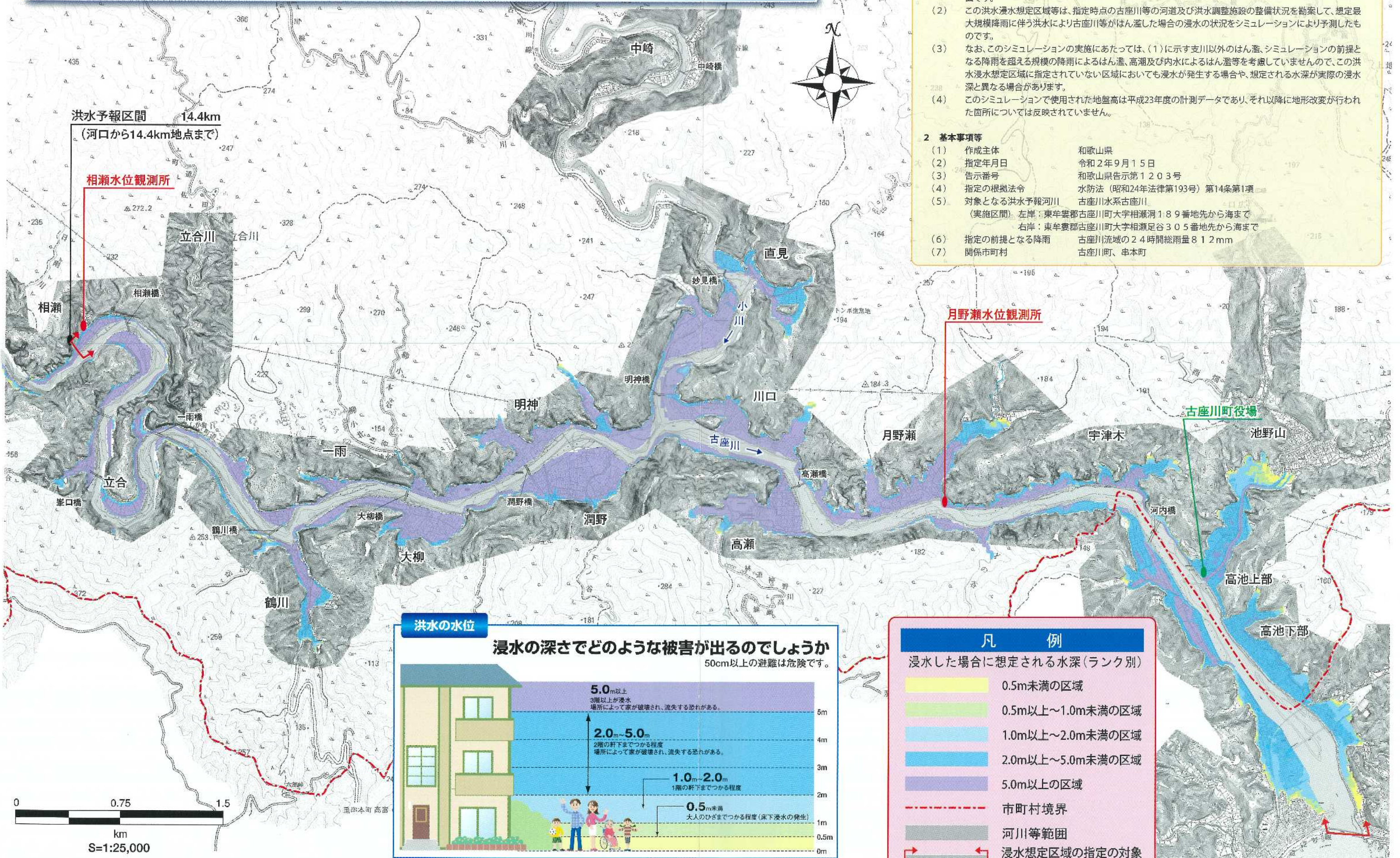


洪水ハザードマップに整理した内容

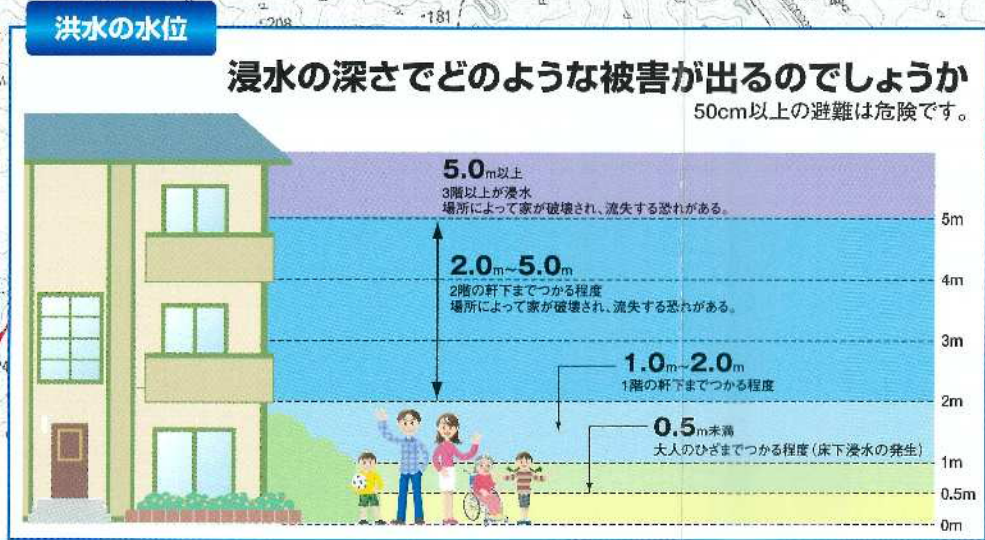
- 古座川、小川のはん濫計算結果(浸水範囲、浸水深)
- 浸水実績(平成23年台風12号による浸水区域)
- 指定避難施設(風水害避難場所安全レベル含む)
- 一時的な緊急避難場所
- 早期の立退き避難が必要な区域(家屋倒壊等はん濫想定区域)
- 5段階の警戒レベル及び避難情報の体系
- 避難時の注意事項 など



●古座川水系古座川 洪水浸水想定区域図(想定最大規模)



- 1 説明文**
- (1) この図は、古座川水系古座川の洪水予報区間その他及び支川の小川(以下、古座川等という)について、水防法の規定により想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
 - (2) この洪水浸水想定区域等は、指定時点の古座川等の河道及び洪水調整施設の整備状況を勘案して、想定最大規模降雨に伴う洪水により古座川等がはん濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。
 - (3) なお、このシミュレーションの実施にあたっては、(1)に示す支川以外のはん濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨によるはん濫、高潮及び内水によるはん濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。
 - (4) このシミュレーションで使用された地盤高は平成23年度の計測データであり、それ以降に地形改変が行われた箇所については反映されていません。
- 2 基本事項等**
- (1) 作成主体 和歌山県
 - (2) 指定年月日 令和2年9月15日
 - (3) 告示番号 和歌山県告示第1203号
 - (4) 指定の根拠法令 水防法(昭和24年法律第193号)第14条第1項
 - (5) 対象となる洪水予報河川 古座川水系古座川
(実施区間) 左岸:東牟婁郡古座川町大字相瀬洞189番地先から海まで
右岸:東牟婁郡古座川町大字相瀬足谷305番地先から海まで
 - (6) 指定の前提となる降雨 古座川流域の24時間総雨量812mm
 - (7) 関係市町村 古座川町、串本町



凡 例

浸水した場合に想定される水深(ランク別)

	0.5m未満の区域
	0.5m以上~1.0m未満の区域
	1.0m以上~2.0m未満の区域
	2.0m以上~5.0m未満の区域
	5.0m以上の区域
	市町村境界
	河川等範囲
	浸水想定区域の指定の対象となる洪水予報河川

※出典:「古座川水系古座川 洪水浸水想定区域図(想定最大規模)」令和2年 和歌山県

【月野瀬区、宇津木区、高池上部区、高池下部区、池野山区】 詳細浸水予測図（避難経路図）



早めの避難があなたの命を救います！

早期の立退き避難が必要な区域では、木造家屋を倒壊させるような激しい流れが発生する危険が高いため、早めの避難が必要です。災害時は避難情報に従って当該区域から安全な場所に、速やかに避難してください。

風水害避難場所の安全レベルについて	
レベル区分	考え方
(☆☆☆)	土砂災害や浸水が発生した場合でも十分に安全な避難場所
(☆☆)	土砂災害や浸水が発生した場合でも一定の安全を確保することが可能である避難場所
(☆)	土砂災害や浸水が発生するおそれがある場合には、閉鎖の可能性がある避難場所
(☆)注	土砂災害や浸水が発生するおそれがある場合には、閉鎖の可能性がより高い避難場所

※家屋倒壊等はん濫想定区域内に立地する指定避難施設のうち、洪水時に流失や倒壊等のおそれがある施設については、安全レベルを設定していません。

※この地図に示した浸水範囲と想定される水深は、指定時点の古座川等の河道及び洪水調整施設の整備状況を勘案して、想定最大規模降雨に伴う洪水により古座川等がはん濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。

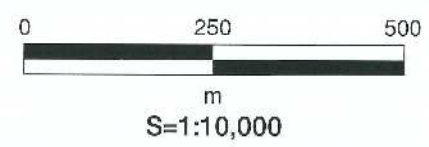
※このシミュレーションで使用された地盤高は平成23年度の計測データであり、それ以降に地形改変が行われた箇所については反映されていません。

●出典：「古座川水系古座川 洪水浸水想定区域図(想定最大規模)」令和2年9月 和歌山県
●洪水を予想するための雨の量：古座川流域の24時間総雨量 812mm (年超過率 1/1,000程度)

凡 例

浸水した場合に想定される水深(浸水深分布)

- 5.0m以上の区域
- 2.0m以上～5.0m未満の区域
- 1.0m以上～2.0m未満の区域
- 0.5m以上～1.0m未満の区域
- 0.5m未満の区域
- 早期の立退き避難が必要な区域(家屋倒壊等はん濫想定区域)
- 浸水実績(台風12号 平成23年9月3日～4日)
- 指定避難施設
- 想定最大浸水深
- 一時的な緊急避難場所
- 避難経路(主経路)
- 避難経路(副経路)
- 町境界
- 河川等範囲



さらに詳細な「地区別洪水避難計画図」は、古座川町ホームページで確認することができます。

【相瀬区、立合区、一雨区、鶴川区、大柳区、明神区、潤野区、川口区、高瀬区、直見区、中崎区】 詳細浸水予測図（避難経路図）

早めの避難があなたの命を救います！

早期の立退き避難が必要な区域では、木造家を倒壊させるような激しい流れが発生する危険が高いため、早めの避難が必要です。災害時は避難情報に従って当該区域から安全な場所に、速やかに避難してください。

凡 例

浸水した場合に想定される水深（浸水深分布）

- 5.0m以上の区域
- 2.0m以上～5.0m未満の区域
- 1.0m以上～2.0m未満の区域
- 0.5m以上～1.0m未満の区域
- 0.5m未満の区域

早期の立退き避難が必要な区域（家屋倒壊等はん濫想定区域）

浸水実績（台風12号 平成23年9月3日～4日）

指定避難施設

想定最大浸水深 開設の可能性が低い避難施設に表示

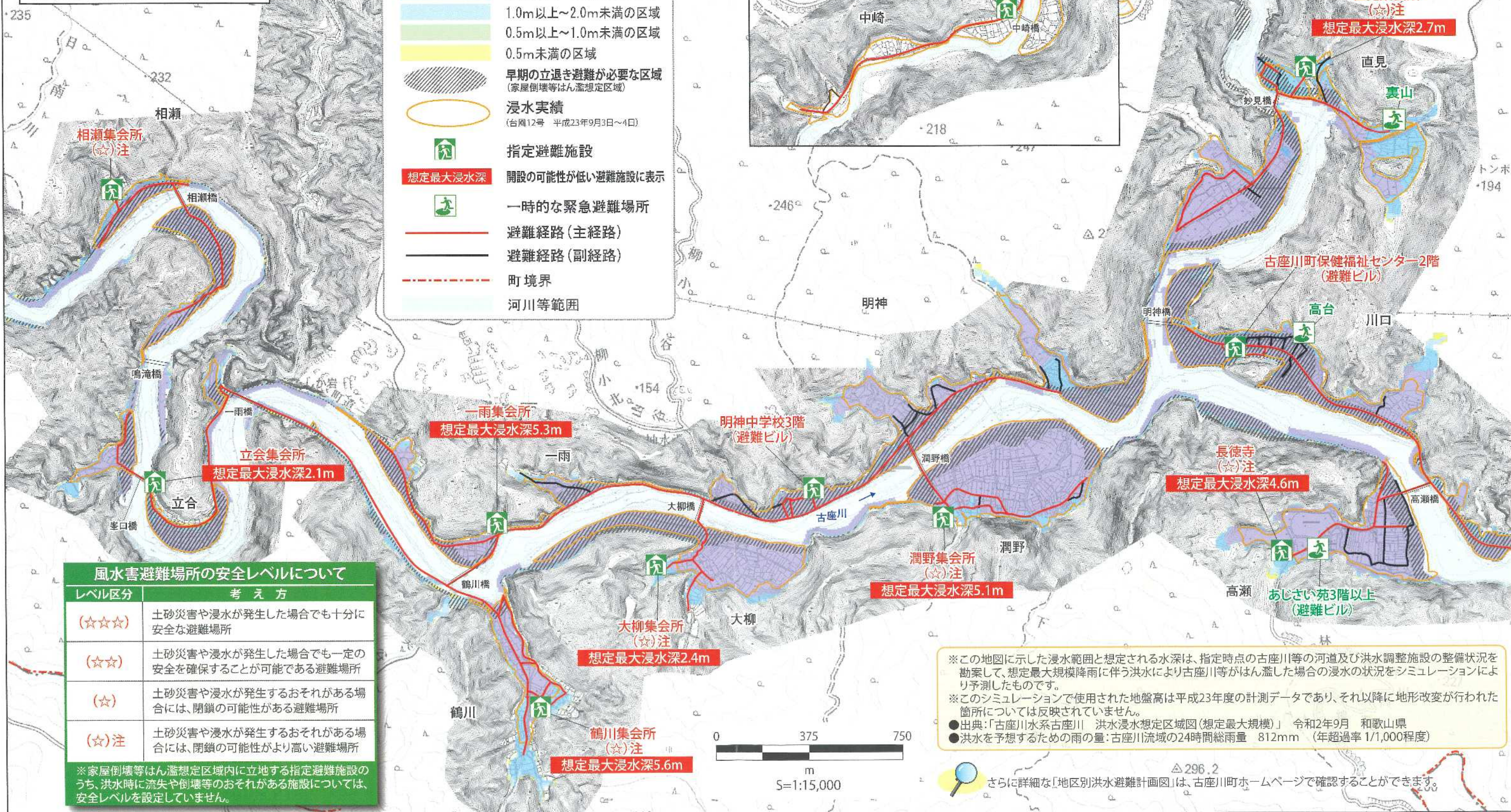
一時的な緊急避難場所

避難経路（主経路）

避難経路（副経路）

町境界

河川等範囲



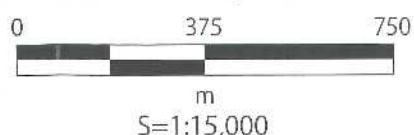
風水害避難場所の安全レベルについて

レベル区分	考え方
(☆☆☆)	土砂災害や浸水が発生した場合でも十分に安全な避難場所
(☆☆)	土砂災害や浸水が発生した場合でも一定の安全を確保することが可能である避難場所
(☆)	土砂災害や浸水が発生するおそれがある場合には、閉鎖の可能性のある避難場所
(☆)注	土砂災害や浸水が発生するおそれがある場合には、閉鎖の可能性がより高い避難場所

※家屋倒壊等はん濫想定区域内に立地する指定避難施設のうち、洪水時に流失や倒壊等のおそれがある施設については、安全レベルを設定していません。

※この地図に示した浸水範囲と想定される水深は、指定時点の古座川等の河道及び洪水調整施設の整備状況を勘案して、想定最大規模降雨に伴う洪水により古座川等がはん濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。
 ※このシミュレーションで使用された地盤高は平成23年度の計測データであり、それ以降に地形改変が行われた箇所については反映されていません。
 ●出典：「古座川水系古座川 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）」令和2年9月 和歌山県
 ●洪水を予想するための雨の量：古座川流域の24時間総雨量 812mm（年超過率 1/1,000程度）

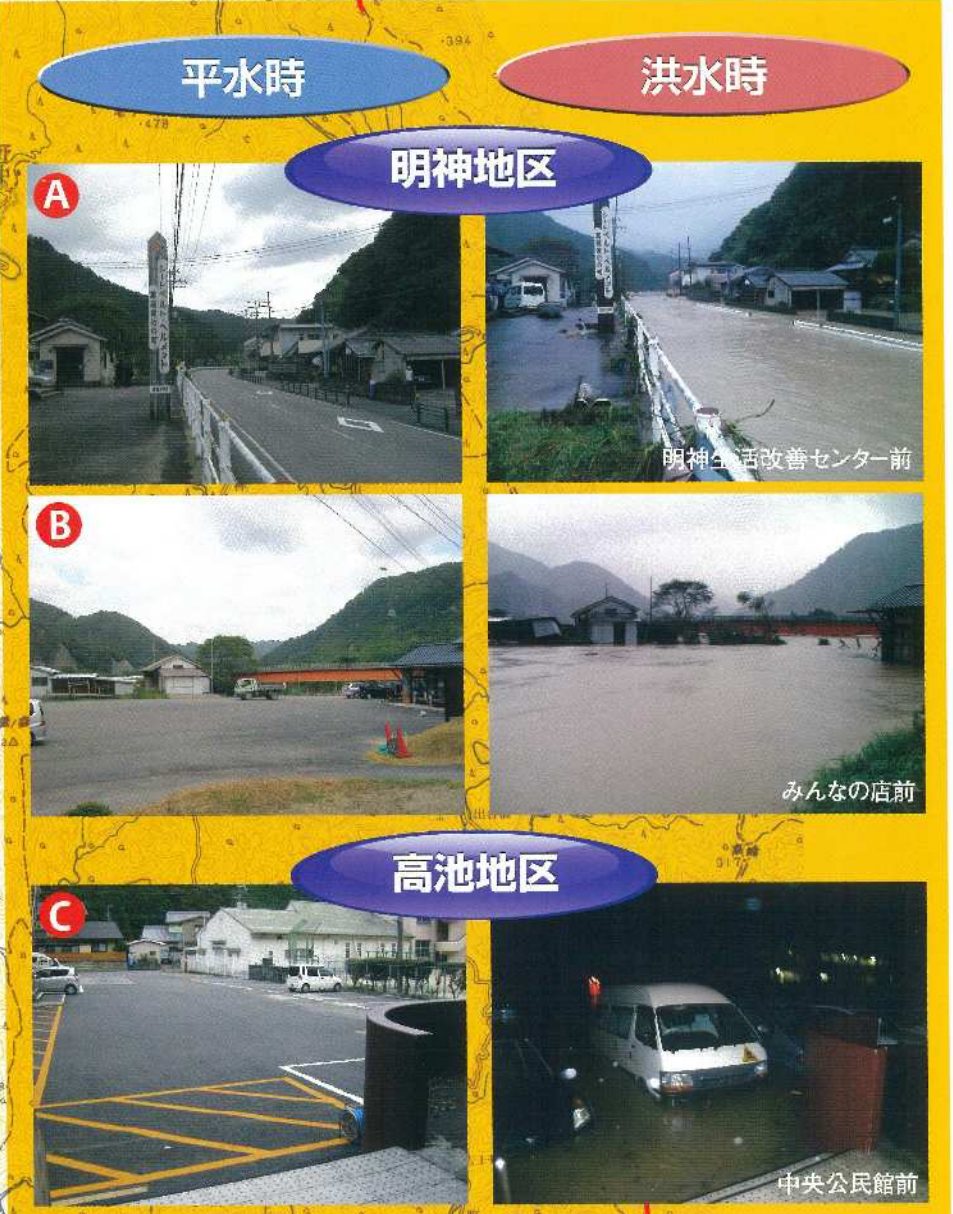
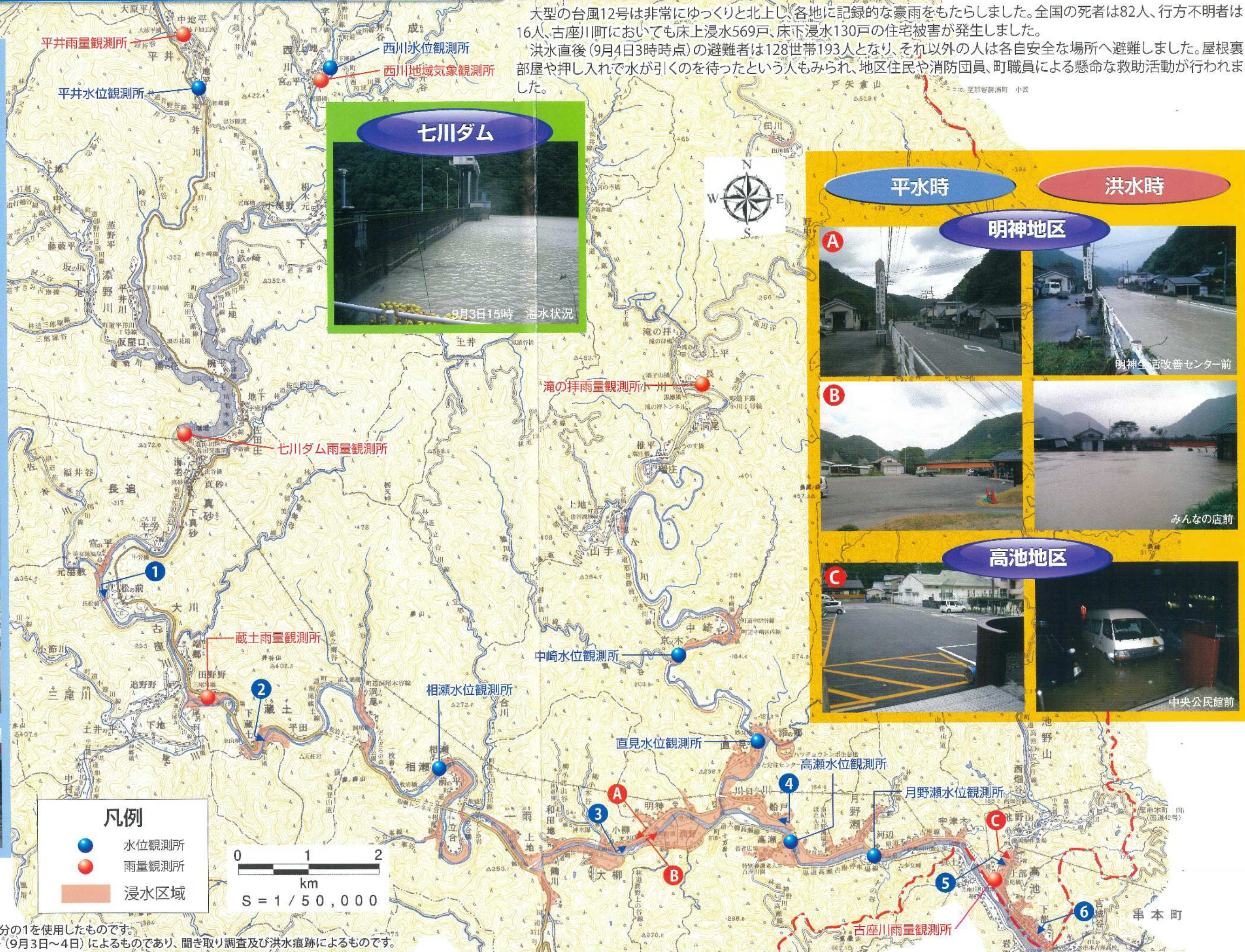
さらに詳細な「地区別洪水避難計画図」は、古座川町ホームページで確認することができます。



過去の災害による浸水の記録 <平成23年台風12号浸水実績図>

流域の被災状況

大型の台風12号は非常にゆっくりと北上し、各地に記録的な豪雨をもたらしました。全国の死者は82人、行方不明者は16人、古座川町においても床上浸水569戸、床下浸水130戸の住宅被害が発生しました。
洪水直後(9月4日3時時点)の避難者は128世帯193人となり、それ以外の方は各自安全な場所へ避難しました。屋根裏部屋や押し入れで水が引くの待ったという人もみられ、地区住民や消防団員、町職員による懸命な救助活動が行われました。



- 凡例**
- 水位観測所
 - 雨量観測所
 - 浸水区域

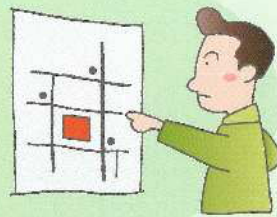
※背景図は、古座川町管内図5万分の1を使用したものです。
※浸水区域は、平成23年台風12号(9月3日~4日)によるものであり、聞き取り調査及び洪水痕跡によるものです。

●避難する時は、こんな点に注意しよう。

避難時のことえ

安全な避難路の確認を...

避難場所までの経路(避難路)は、あらかじめ自分たちで決めておき、安全に通行できるかを事前に確認しておきましょう。



避難を始める直前に...

ガス、電気などの火元を消し、避難場所をもう一度確認しましょう。



非常持ち出し品の事前準備を...

避難するときの荷物は必要最低限とし、事前に準備しておきましょう。



避難の呼びかけに注意を...

危険が迫ったときには、役場や消防・警察から避難の呼びかけをすることがあります。避難のときは、消防・警察などの指示に従って行動してください。単独での行動は大変危険です。



雨が激しく降ってきたら...

雨や台風などの状況を、テレビ・ラジオ・インターネットなどで確認し、最新の気象情報を入手してください。また、町の広報車、警察・消防からの呼びかけにも注意を払ってください。



お年寄りや子供などの避難は...

お年寄りや子供、障がいのあるひと、病気のひとは、避難に時間がかかるため、近所のお年寄りや子供などの避難に協力しましょう。



避難のタイミング...

広報車からの呼びかけが始まる前でも、雨の状態から洪水や土砂災害の危険を感じたら自主的に避難を開始します。自宅を離れるときは、ご近所や区長などに避難先を連絡するなど、できるだけ声をかけてから避難するようにしましょう。



避難中にも危険がいっぱい

避難中はできるだけ浸水していない場所を歩き、浸水している場所では溝や水路の存在に注意しましょう。また、がけに沿った道は土砂災害のおそれがあるので注意が必要です。



逃げ遅れた場合は...

避難が遅れたときには、自宅や近くの丈夫な建物のできるだけ高いところへ逃げましょう(垂直避難)。



万一の時も、みんなで助け合おう

要配慮者をみんなで守りましょう。

高齢者や乳幼児、小学生、身体の不自由な方など、災害時に自力で避難することが困難で助けが必要な方には、日頃から積極的にコミュニケーションを図って、万一の時もみんなで協力しましょう。

高齢者・病気のひと

複数の人で避難させましょう。急を要する場合はひもなどを使って背負うなどして、安全な場所へ避難させてください。



目の不自由なひと

「お手伝いしましょうか」などと、まず声をかけ、つえを持っていない腕のひじのあたりを軽く触れるか、腕を貸しながら半歩前をゆっくり歩いて誘導します。



車いすや足の不自由なひと

それぞれの人に適した誘導方法を確認し、早めに避難させましょう。



耳の不自由なひと

話すときは、近くまで寄って相手にまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かします。口頭で聞こえない場合は、ペンで筆談し、ペンがなければ相手の手のひらに指先で字を描いて筆談します。



●大雨による土砂災害に注意

町域の大部分が山地で構成されている古座川町においては、大雨による河川のはん濫だけではなく、土砂災害にも注意を払う必要があります。

なお、土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域と表示されている場所以外でも土砂災害が発生する危険性がありますので、注意してください。

土砂災害の前兆現象

このような前触れを見たらすぐ通報、すぐ避難。

山鳴りがする。

川の流れが**濁り**、**流木**が混ざりはじめる。

雨が降り続けているのに川の**水位**が**下がる**。

地面・がけに**ひび割れ**ができる。

小石がパラパラ落ちてくる。

斜面・がけから**水**が湧き出る。



[平成23年台風6号による被害]



土石流が集落の背後を襲う
【土石流による被害】(松根地区)

[平成23年台風12号による被害]



がけ崩れにより寸断された道路
【がけ崩れによる被害】(林道松根小森川線)

●我が家の防災メモ

◎通報メモ

●通報の種類	○(事故・火事・救急)です。
●住所・名前	○古座川町()の()です。
●現在の状況	○(誰が、何が、どうなっています。)
●近隣の目標物	○近所に()があります。
●電話番号	○電話番号は()です。

◎緊急時の連絡・問い合わせ先

●事件・事故の急報	110番	●もよりの警察署	
●火災・救急・救助の急報	119番	●もよりの消防署	
●救急医療情報センター	073-426-1199 (病院紹介)	●電気関係	
●災害用伝言ダイヤル	171番	●ガス関係	
●天気予報	177番	●水道関係	
●もよりの病院		●電話関係	

◎インターネットによる「川の防災情報」

●和歌山県 河川/雨量防災情報(和歌山県)	http://kasensabo02.pref.wakayama.lg.jp/mainMap.html
●防災わかやま(和歌山県)	http://bousai-portal.pref.wakayama.lg.jp/
●気象情報(和歌山地方气象台)	https://www.jma-net.go.jp/wakayama/
●川の防災情報(国土交通省)	https://www.river.go.jp/

◎家族の安否確認先

●避難場所	
●集合場所	
●緊急連絡先 (親戚・知人等)	
	名前 生年月日 血液型 会社・学校の住所 電話(会社・学校・携帯)
●家族の連絡先	

◎災害時の緊急連絡先

警察 110	消防・救急 119	古座消防署 0735-72-0119	七川分駐所 0735-76-0119	町災害対策本部(設置時) 0735-72-0180(代)
-----------	--------------	-----------------------	-----------------------	---------------------------------

被災地域内と他の地域を結ぶ声の伝言板。 「災害用伝言ダイヤル171」

利用ガイダンスにしたがってご利用ください。

伝言の録音方法	伝言の再生方法
<ol style="list-style-type: none"> 1 171にダイヤルする ▼ガイダンスが流れます 2 録音する場合は 1 暗証番号を利用する 録音は「3」 ▼ガイダンスが流れます 3 ()にダイヤルする 被災地の電話番号*、携帯電話・PHS・IP電話の電話番号をダイヤルしてください。 *市外局番からダイヤルしてください。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 171にダイヤルする ▼ガイダンスが流れます 2 再生する場合は 2 暗証番号を利用する 再生は「4」 ▼ガイダンスが流れます 3 ()にダイヤルする 被災地の電話番号*、携帯電話・PHS・IP電話の電話番号をダイヤルしてください。 *市外局番からダイヤルしてください。

家族等の安全がインターネット上で確認できる。 「災害用伝言板web171」

画面の指示によりご利用ください。

登録方法	閲覧方法
<ol style="list-style-type: none"> 1 https://www.web171.jpにアクセス 2 電話番号を入力 ()に電話番号を入力 被災地の電話番号*、携帯電話・PHS・IP電話の電話番号を入力してください。 *市外局番から入力してください。 3 画面の指示に従って 文字による伝言を登録してください 	<ol style="list-style-type: none"> 1 https://www.web171.jpにアクセス 2 電話番号を入力 ()に電話番号を入力 被災地の電話番号*、携帯電話・PHS・IP電話の電話番号を入力してください。 *市外局番から入力してください。 3 画面の指示に従って 文字による伝言の追加登録をしてください

●洪水はなぜ起こるの？

■洪水・はん濫について

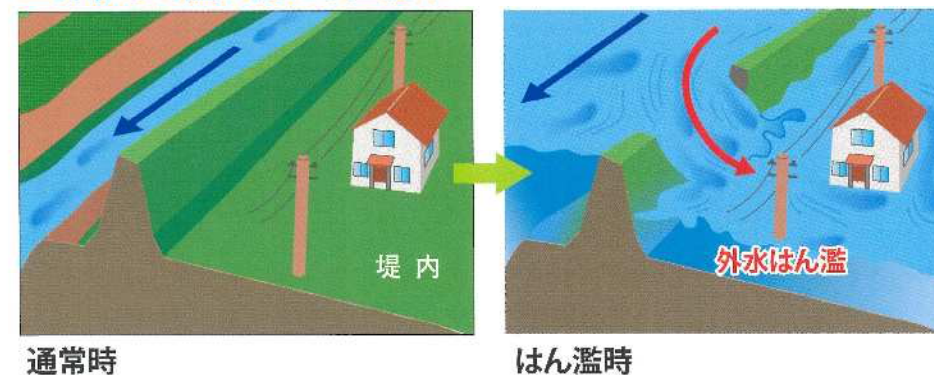
川を流れる水は、地表に降った雨が地面の中にしみ込んだり地表を流れたりして、流域で最も低い位置にある川に集まってきたものです。

[洪水]というのは、大雨などによって、川を流れる水の量が普段より著しく増えた状態をいいます。

[はん濫]というのは、雨などによって、宅地や農地などに水があふれることで、川から洪水があふれることを「外水はん濫」といいます。川から洪水があふれたのではなく、宅地や農地に降った雨が直接その場にたまり、あふれてくることを「内水はん濫」といいます。洪水のはん濫は、浸水の深さだけでなく、流れの速さにも注意が必要です。

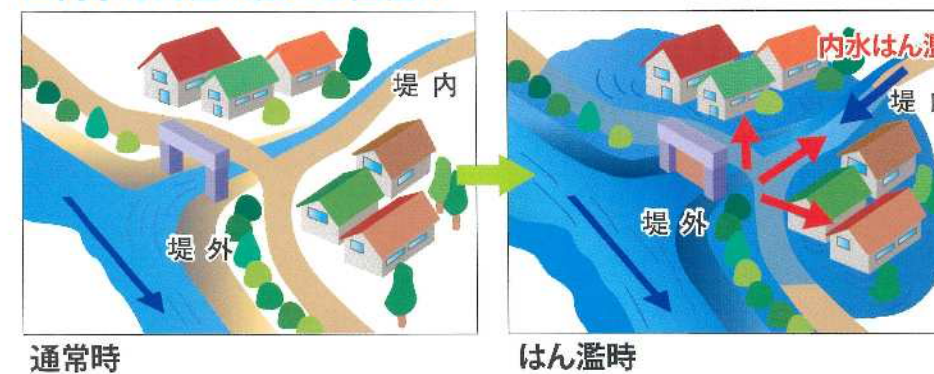


■外水はん濫の起こる仕組み



平成23年9月3日外水はん濫の状況
(明神地区潤野橋付近)

■内水はん濫の起こる仕組み



平成23年9月4日内水はん濫の状況
(高池小学校グラウンド)